



キャンパス内 学生集いのスペース

校友会報

第 41 号

静岡県三島市文教町 2-31-145
日本大学国際関係学部
校 友 会

◎ 常任幹事会

平成二十二年七月十日(土)十六時から、国際関係学部校舎十五号館二階二五一三教室において開催された。相田信次会長挨拶の後、会長進行により議事に移り、幹事会提案事項について田中由雄幹事長並びに柴田正顧問・相田信次会長から各項目ごと詳細にわたり説明があり審議された。

◎幹事会 平成二十二年七月十日(土)十七時から、常任幹事会に引き続いて幹事会が開催された。瀬川宏常任幹事の司会で進行され、相田信次会長挨拶の後、議長団・書記が選出された。議長には高野誠常任幹事、副議長には加藤久貴幹事、書記には露木ひろみ常任理事がそれぞれ選出され、次の議事が審議された。

平成二十一年度事業報告 平成二十一年度決算報告

監査報告

新幹事に関する件

平成二十一年度事業計画(案)

平成二十一年度予算(案)

国際関係学部校友会中・
長期事業計画に関する件

会則改正に関する件

会長賞給付規程改正に関する件

校友会奨学金に関する件

校友名簿作成委員会について

国際校友会式WEBサイト開設について

本部校友会報告

その他

田中由雄幹事長から、平成二十一年度事業報告続いて平成二十一年度算報告が報告、染谷徳昭会計監査から会計報告があり、それぞれ承認された。

校友への通知等を密にするため、平成二十一度は国際関係学部六名・食物栄養学科十二名が新幹事として事務局から推薦があり承認された。また、桜栄会会長任期満了に伴い後任に浅田義志子氏、金井美智子氏が参与、佐野茂子氏が幹事に変更となつた。

（案）及び平成二十二度収支予算（案）について田中由雄幹事長から説明がなされ、審議の結果、二議案とも承認された。

国際関係学部校友会中・長期事業計画に関する件については柴田正顧問から提案説明がなされ計画三項目については総会にて再提案することとなつた。

は田中由雄幹事長から国際校友会名簿作成促進のため、会長を委員長とし副会長及び幹事長を委員としたい旨の報告がなされた。

国際校友会公式WEBサイト開設については田中由雄幹事長から平成二十二年一月開設された旨と内容報告がなされた。

本部校友会報告としては相田信次会長から校友会会館の竣工が平成二十二年六月三十日にされた報告がなされた。次に柴田正顧問からは箱根駅伝応援等で使用する太鼓の購入、十月十六日箱根駅伝予選会への応援参加について報告がなされた。

その他としては相田信次会長から大学側より卒業記念品の一本化について要望があり会長・副会長会議等での検討内容の説明がなされた結果、従来とおりとしていくことで承認された。

次に田中由雄幹事長から、会報(第四十一号)発行について毎年のとおり校友会奨学金授与者六名に原稿依頼をしたい旨の報告がなされた

「飛躍に向けて」



国際関係学部長

佐藤 三武朗

校友の皆様におかれましては、ますますご清栄のことと推察します。

三島キャンパスは、校友の皆様のご支援とご理解を頂き、大きく発展しています。昨年の創設30周年記念を契機として、教職員は一丸となって、過去の実績を踏まえつつ未来を指向し、教育を取り巻く課題の克服に努めています。

確かに、少子化の煽りを受け、どの大学も苦難を強いられています。本学部も例外ではありません。志願者の減少は、大学の財政を圧迫するからです。

しかし、ピンチはチャンスです。学部の特色を發揮し、優秀で個的な学生を集め、絶好の機会と捉え、広報活動に専念しています。校友の皆様のご理解を得て、今年度から下宿生や新幹線通学者への支援を行うことができました。学生も父兄も喜んでいます。

未来を担う人材の育成には、可能な限りの支援が欠かせません。

精神的な支援は元より、経済的な支援に加えて、逞しい体力が人生には不可欠です。ゴルフ部は全国優勝を飾りました。その中心的な役割を演じたのが、本学部の四年生です。喜ばしい限りです。

来年の六月には、食育推進全国大会が本学部を会場校として開催されます。日本全国から三万、四万の来場者が予想されます。内閣府、静岡県、三島市と連携して、

大学は、学生が主役であること

はもちろんですが、教職員に加えて、校友の力が欠かせません。むしろ、欧米の大学のように、校友こそ、

その持てる力を十二分に發揮して、新たな大学の発展を期したいと考えます。実社会で活躍する校友の皆さんのご協力があれば、日本大

学はそのスケール・メリットを生かし、就職難の現在においても、明るい未来が開けると信じます。中小企業経営者が他大学より抜きん出て多い日本大学は、校友を頼もしい存在と考えています。これからも在校生に対し、校友の皆さんのアドバイスを頂きます。

学生は夢に生きています。校友の皆さんのご支援を切にお願いします。

考え、自らの力で課題を見出し、扶友の皆さんの温かいご指導は何にも増して貴重です。また日本大學生に船出するわけですから、校は文武両道を重んじています。教

養に加えて、逞しい体力が人生には不可欠です。ゴルフ部は全国優勝を飾りました。その中心的な役割を演じたのが、本学部の四年生です。喜ばしい限りです。

来年の六月には、食育推進全国大会が本学部を会場校として開催されます。日本全国から三万、四万の来場者が予想されます。内閣府、静岡県、三島市と連携して、

この大会を成功させるべく、校友の皆さんのご協力を心からお願いします。

三島学園には、富士の絵姿が似合います。希望の森、思索の森など緑が豊かで、学生生活を送るのに最高の場所です。加えて、三島市は宿場町として栄え、文化と歴史と自然に恵まれた街です。学生にとって、生涯で最も貴重な青春時代を過ごす思い出の街です。

学生は夢に生きています。校友の皆さんのご支援を切にお願いします。

「校友会の今後を思う」



国際関係学部事務局長

佐野 勝己

国際関係学部校友会員の皆様には、ますますご清祥のことと衷心よりお慶び申し上げます。本年三月十五日付で、国際関係学部事務局長を拝命し本部広報部から参りました佐野勝己と申します。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

この度、ここに機会を頂きましてご挨拶をかねて学部の近況並びに校友会に対する私の思いを二言述べさせていただきます。

さて、国際関係学部は来年度から従来の四学科を改編して、新しく「国際総合政策学科」、「国際教養学科」の二学科としてスタートすることになりました。お蔭様であります。新学科の案内書には「平成二十三年四月改編(予定)」と表記しておりますが、七月二十日付の文部科学省のホームページにて「平成二十三年度開設予定の大学の学部の学科等の設置届出について(平成二十二年五月分)」の発表があり、これからは「予定」という言葉なしに「平成二十三年四月改編」と表記できることになりました。お蔭様であります。これは学内的な準備をしながら開設を待つばかりとなりました。新学科のポスターでは青空の下「2011年の変」と題し、「誕生 国際総合政策学科」及び「誕生 国際教養学科」という二本の幟旗を立てた図柄の下に「新しい二学科体制の学びがスタートします。」というフレーズとオープンキャンパスの日程が表示され新学科誕生のアピールをしています。これからも引き続き全国へ向けて新学科の誕生を広報して参ります。校友会員の皆様にはこの改編をご理解いただき、更なるご支援を賜ります

本年五月末に文部科学省に学部改編について届出申請を行い、新

学科の案内書には「平成二十三年四月改編(予定)」と表記しておりますが、七月二十日付の文部科学省のホームページにて「平成二十三年度開設予定の大学の学部の学科等の設置届出について(平成二十二年五月分)」の発表があり、これからは「予定」という言葉なしに「平成二十三年四月改編」と表記できることになりました。お蔭様であります。新学科の案内書には「平成二十三年四月改編(予定)」と表記しておりますが、七月二十日付の文部科学省のホームページにて「平成二十三年度開設予定の大学の学部の学科等の設置届出について(平成二十二年五月分)」の発表があり、これからは「予定」という言葉なしに「平成二十三年四月改編」と表記できることになりました。お蔭様であります。これは学内的な準備をしながら開設を待つばかりとなりました。新学科のポスターでは青空の下「2011年の変」と題し、「誕生 国際総合政策学科」及び「誕生 国際教養学科」という二本の幟旗を立てた図柄の下に「新しい二学科体制の学びがスタートします。」というフレーズとオープンキャンパスの日程が表示され新学科誕生のアピールをしています。これからも引き続き全国へ向けて新学科の誕生を広報して参ります。校友会員の皆様にはこの改編をご理解いただき、更なるご支援を賜ります

ようお願い申し上げます。

年、学部創設三十周年を迎えた。その記念事業の一つとして、記念誌「30年の歩み」が発行され、編集委員長の先生が着任早々の私の許へ届けて下さいました。早速、記念誌の扉を開いてみますと、略年表、昭和五十四年度（1979年度）国際関係学部設置認可記念式、入学式、開校式等の写真が日に入り、当時教務課に勤務しており、学部設立の業務に携わっていたことから、「国際関係学科」「国際文化学科」開校時代がとても懐かしく、我国初の「国際関係」の名を冠した学部である設置認可申請書の大変な作業や、認可前からの「予定」という条件付きの学生募集や認可後の募集、面接をも取入れた三島・東京（法学部校舎）と二会場での入学試験等、初めて経験する学部入試業務を行った三十年前へ急に引き戻されたような思いがいたしました。

巣立つており、それぞれの社会で活躍をされております。

また、短期大学部については商経学科と食物栄養学科の二学科体制が継続されて、これまでに二万七千名を超える卒業生を送り出し、既に廃止されている文学科並びに生活文化学科生活文化専攻等を合わせると、三万六千余名の卒業生を数えることになり、それぞれの地域社会で活躍しております。

前述のとおりであり、四年後からは、創設期の一学科、改組後の四学科、そして改編後の二学科と三位合わせた卒業生となってきます。従つて、本校友会の今後を考えてみますと、これからは主な部分を国際関係学部の卒業生に担つていたかなければならぬ時期が迫ってきてきているのではないかと思つております。

校友会の皆様に置かれます

校友会員の皆様へ

国際関係学部校友会

相田
信次

の情報や連絡事項を発信しますので校友会会員の皆様のご活用の程宜しくお願ひします

又校友会会員からの色々な意見やお考えもお伝え下さい。

はシード件が取れず今年は予選会からの再出発と成りました。予選会は一月一六日(土)

た予選会は十月十六日(土)立川市昭和記念公園内で行います。校友会としても正月の

東京・箱根間往復駅伝に出場
出来る様、予選会に応援バス
を出します。参加希望者は、

を出します 参加希望者は
ホームページに詳細を載せま
すのでご覧下さい。

④日本大学校友会の活動拠点となる桜門会館「校友会館」が完成しました。六月三十日こ

<http://www.nu-ik-koyukai.jp/>

<http://www.nu-ik-koyukai.jp/>

参加して行きました。

建物は鉄筋コンクリート四階建です。



今後はホームページより最新
です。

一階はラウンジ・桜の間、二階は会長室・役員談話室・事務室、三階は大会議室、四階は桜ホール

所在地はJR市ヶ谷駅下車徒歩三分の東京都千代田区五番町二番地六です。

校友会会員の皆様は東京での会議や会合等懇親会などに是非御利用下さい。

⑤平成二十三年四月より国際関

係学部は更なる国際情勢を踏まえて国際総合政策学科と国際教養学科の新しい2学科制の学びがスタートします。校友会会員の皆様は1人でも多くの受験生をご紹介下さい。

結びに、校友会会員の皆様からの変らぬ助言とご協力を受け賜ります。

宜しくお願いします。

時代の変化に対応



国際関係学部校友会副会長
国際関係学部同窓会長

宮下 公雄

現在の国際交流学科、国際ビジネス情報学科が創設され、二〇一一年から、国際総合政策学科、国際教養学科に統合され、より外部からもシンプルで解りやすい、時代が必要とする人材育成の場へと変化し続けています。

世の中も大きく移り変わり、我々が学生の頃にはなかつたツールも、時代の主役へと大きく変化をして来ています。

二〇〇八年に登場した、アップルコンピューター・i phoneの登場、今年鳴り物入りで登場したi padでの仕事の方法、勉強の方法が大きく変わりつつあります。

昨年幼少の子供を連れた家族とイタリア旅行をした時、流石に1週間もすると子供達も単調な旅行に飽きてしまったため、持つていたi phoneの、パソコン機能でお母さんといっしょをダウンロードし、食事の場で見せたところたちまち、和やかな場が広がり便利な世の中になつたと痛感させられたものでした。

最近、私自身のみならず、八十歳を過ぎた父親もi padで新聞を読んだりネットサーフィンをしたりと1年前では考えられなかつた。

校友の皆さんにおかれましては多方面でご活躍のこととお喜び申しあげます。国際関係学部国際関係学科1期卒業の宮下公雄と申します。国際関係学部校友会も、相田信次校友会会长 柴田正顧問 西村美枝子顧問 田中由雄幹事長 他諸先輩のご尽力により活躍の場を他学部校友会との交流へと大きく移しております。三島の歴史と伝統を築き大きく発展へと大きく移しております。三島の歴史と伝統を築き大きく発

係学部は更なる国際情勢を踏まえて国際総合政策学科と国際教養学科の新しい2学科制の学びがスタートします。校友会会員の皆様は1人でも多くの受験生をご紹介下さい。

現在の国際交流学科、国際ビジネス情報学科が創設され、二〇一一年から、国際総合政策学科、国際教養学科に統合され、より外部からもシンプルで解りやすい、時代が必要とする人材育成の場へと変化し続けています。

クラウドコンピューティングがビジネスパーソンの仕事術に大きな変化をもたらしつあります。クラウドコンピューティングとは雲の上の計算処理、会社に縛られず仕事が出来る環境等で、ビジネスの有方を変えつあります。私の若いころは、パソコンのハードディスクは少量の物で、よくいらない文章やソフトを、フロッピーディスクに保存するのに大変な苦労をしました。今ではグーグルの無料データー保存サービスでは七ギガバイト マイクロソフトのスカイドライブなどはただで二十五ギガまで保存できます。データー通信料金の低額化で、メールはどこでも即時にチェックでき、休みの日でも緊急時の対応は当たり前になります。ここで忘れてはいけないのは、無限のデジタルツールと使いこなす人間のアナログ的要素の絶妙なマッチングこそがすばらしい仕事術を生み出す事にあります。

言葉の表現も知識をたくさん持つている人も大切ですが、より引出しお多い人材、適材適所で反応出来る人間形成へと変わりつつあります。より柔軟な人間形成が出来る時が、言葉は古いでしょうが学生時代のキャンパスライフに有ると思

いものが有ります。仕事の上でよく使う、ワインのビンテージチャート、リキュールの特性、カクテルのレシピなども瞬時に、音声コマンドで取り出すことができ、緊急の対応に大変役立つております。

く使う、ワインのビンテージチャート、リキュールの特性、カクテルのレシピなども瞬時に、音声コマンドで取り出すことができ、緊急の対応に大変役立つております。

私は自身、大学時代多くの仲間と勉学に励み今から三十年前、四十日間の中国研修旅行も体験しました。

現在の生活の基盤として大いに役立っていることは言うまでもありません。

どうか学生の皆様も、卒業して働いている皆様も学生時代に培ったスキルを整理する上でも国際関係学部校友会（本年度は三島で校友会と合同開催、来年度は東京開催になります。）を、自分磨きの場として大いに活用して頂きたいと思います。これからも国際関係学部校友会に皆様のご支援をお願いいたします。

日本大学
国際関係学部校友会
Nihon University College of International Relations

Challenge the World

校友会について 招聘紹介 行事案内 写真館 校友リンク

三島同窓会発足の頃



國際關係學部校友會
顧問

瀬川
一男

三島に日本大学予科が開設されたのは昭和二十一年。私も六十二年前の昭和二十三年予科に入学し、教養部とあわせて三年間を三島校舎で過ごした。ここで多くの友を得て、共に助け合って人生を歩み今日に至っている。

経済学部を卒業して三島教養部に勤務することになった。その前後の頃で一番に思い出されるのは、同窓会結成を熱烈に呼びかけ、これを実現した種房繁氏のことだ。彼は昭和二十六年十一月大学祭先輩招待会の席で「三島出身者の会を結成して、

と呼びかけ、万場の賛同を得て同窓会結成の気運が決定的となつた。その後、何回も発起人会が開かれ、昭和二十八年十一月三日結成総会が開催された。ここで規約・役員・方針が可決され、名前も「日本大学三島同窓会」と決定した。また、会費納入が自治会と協議し、在学中に納入することで決定した。更に

役員は会長を秋葉教養部長にお願いした。幹事長（後に会長）は種房繁、副幹事長（後に副会長）は奥田吉郎、常任幹事は中野繁、西村満男、尾朝豊春、辻省二、佐藤力男、坂詰正衛、田島文義、監査は高木貞男の諸氏、事務局長は瀬川一男、同次長は岡本健氏で発足した。

また、主な推進事項は次の四

会費を積立て利息により事業等を行なう方が、より健全に会の運営が約束されるということ定した。しかし、当時貳百円を納入することは大変で大学会計課の高桑課長、石川貞夫氏には大変なおほねおりをいただいたことを忘れてはならない。

目標は四年後の昭和三十二年に達成された。いよいよ活動できることとなり会員一同は歓喜した。また、これに対応できるよう規約整備、役員改選、夢の実現に向けた事業計画が準備

しい限りだ。学生時代の平井、市川、渡辺、板垣、佐野、金井の諸嬢のお顔が目に浮かびます。また、西村美枝子氏や皆様のご努力により同窓会も国際関係学部校友会と発展したことは喜ばしい。校友会が今後柴田、相田、田中の諸氏のもと一同団結して益々発展することを期待しております。

③学園歌集。西村常任が編集し、昭和三十五年より入学祝いとして新入生に贈った。今は卒業祝いとして内容も変わったが続いている。

④会報発行。当初の頃発行には苦労したが角田義広氏に助けられた。同窓会報から校友会報と名前は変わつて現在四十号までも続いている。

こうして発足した同窓会。三十周年の記念事業、五十周年の寄附騒ぎも無事のりこえた。六年は静かに過ぎたが、桜栄会

所属していた学生会CSAでした。キャンパス内での生活を充実させたいと思っていたので活動内容は魅力的でした。しかしながら、想像していたよりも忙しく厳しいものでした。特に一年の時は教職課程、学部主催のティーチングインターンシップに参加しながら、会計を務め、富桜祭ではゼミナール対抗ディベート大会の責任者を任せられました。

住みなれた東京を離れて一人暮らしを初めて経験した静岡県三島市。駅から見えた富士山は実家から見えるものと比べものにならない程大きく雄大でした。そしてあつという間に充実した日本大学国際関係学部での学生生活も残りわずかになってしまいました。

私にとって大学生活は「挑戦」でした。末っ子ということもあり両親からの愛情を受けのびのびと生活をしていましたが、一人暮らしへの「挑戦」を契機に多くのことに挑戦することができました。

ながら成長することができました。その挑戦する機会を学生会CSAを通して得ることができたと思っています。日本大学を通して出会った教職員の方々・友人・先輩後輩・出会った全ての方々に心からの感謝を結びとし、この場を借りて深く御礼申し上げます。

が、部員の助けもあって無事にまとめることができました。ただ残念なことはスタッフとして参加する最後の富桜祭が新型インフルエンザで二日間に短くなり来場者の方々や参加・協力してくださった各団体にご迷惑をかけてしまったことです。また初めて参加した1年生と上級生と下級生の間で陰ながらがんばつていた2年生に対しても最後までやりとげることができなかつたことに申し訳なく思っています。この気持ちを引き継いでもらい学生会CSAの活動をより充実したものにして欲しいです。

校友會長賞受賞者



国際関係学科四年

た。何度も諦めたいと思つていまし
たが、最後まで挑戦し続ける大切
さとその後の達成感を得ることが
できました。三年では委員長とな
り、初めてグループを集め役職に
なりました。初めてのことだったの
で、今までにない挑戦することに
なりました。部員が今までの2倍
になつたり環境の変化など乗り越
えることがたくさんありました
が、部員の助けもあって無事にまと
めることができました。ただ残念
なことはスタッフとして参加する最
後の富桜祭が新型インフルエンザで
二日間に短くなり来場者の方々や
参加・協力してくださった各団体に
ご迷惑をかけてしまったことです。
また初めて参加した1年生と上級
生と下級生の間で陰ながらがんば
つていた2年生に対しても最後ま
でやりとげることができなかつたこ
とに申し訳なく思っています。この
気持ちを引き継いでもらいたい学生会
CSAの活動をより充実したもの
にして欲しいです。

多くの挑戦と挫折を繰り返し
ながら成長することができます
た。その挑戦する機会を学生会
CSAを通して得ることができた
と思っています。日本大学を通して
出会った教職員の方々・友人・先輩
後輩・出会った全ての方々に心から
の感謝を結びとし、この場を借りて
深く御礼申し上げます。

件であった。

①奨学金。準備は岡本常任が担当し、渡部浩司君に始まり今日も続けられている。金額は五阡円でも、名誉はよりたたえられた。

②新入生歓迎会。佐藤常任が努力され、同窓会が上級生の代わりとなり昭和三十三年より学生の会に引き継がれる四十年まで続いた。

③学園歌集。西村常任が編集し、昭和三十五年より入学祝いとして新入生に贈った。今は卒業祝いとして内容も変わったが続いている。

④会報発行。当初の頃発行には苦労したが角田義広氏に助けられた。同窓会報から校友会報と名前は変わって現在四十号までも続いている。

こうして発足した同窓会。三十周年の記念事業、五十周年の寄附騒ぎも無事のりこえた。六十年は静かに過ぎたが、桜栄会五十周年は盛大に迎えられ喜ばしい限りだ。学生時代の平井、市川、渡辺、板垣、佐野、金井の諸嬢のお顔が目に浮かびます。また、西村美枝子氏や皆様のご努力により同窓会も国際関係学部校友会と発展したことは喜ばしい。校友会が今後柴田、相田、田中の諸氏のもと一同団結して益々発展することを期待しております。

校友会長賞受賞者

A black and white portrait of Hiroaki Hirose, a young man with dark hair, wearing a suit and tie, looking directly at the camera.

国際関係学科四年

廣瀬 公彦

住みなれた東京を離れて一人暮らしを初めて経験した静岡県三島市。駅から見えた富士山は実家から見えるものと比べものにならない程大きく雄大でした。そしてあつという間に充実した日本大学国際関係学部での学生生活も残りわずかになってしまいました。

私にとって大学生活は「挑戦」でした。末っ子ということもあり両親からの愛情を受けのびのびと生活をしていましたが、一人暮らしへの「挑戦」を契機に多くのことに挑戦することができました。

特に印象的な「挑戦」は三年間所属していた学生会CSAでした。キャンパス内での生活を充実させたいと思っていたので活動内容は魅力的でした。しかしながら、想像していたよりも忙しく厳しいものでした。特に一年の時は教職課程、学部主催のティーチングインターーンシップに参加しながら、会計を務め、富桜祭ではゼミナール対抗ディベート大会の責任者を任せられまし

た。何度も諦めたいと思つていまし
たが、最後まで挑戦し続ける大切
さとその後の達成感を得ることが
できました。三年では委員長とな
り、初めてグループを集める役職に
なりました。初めてのことだったの
で、今までにない挑戦をすることに
なりました。部員が今までの2倍
になつたり環境の変化など乗り越
えることがたくさんありました
が、部員の助けもあって無事にまと
めることができました。ただ残念
なことはスタッフとして参加する最
後の富桜祭が新型インフルエンザで
二日間に短くなり来場者の方々や
参加・協力してくださった各団体に
ご迷惑をかけてしまったことです。
また初めて参加した1年生と上級
生と下級生の間で陰ながらがんば
つていた2年生に対しても最後ま
でやりとげることができなかつたこ
とに申し訳なく思っています。この
気持ちを引き継いでもらいたい学生会
CSAの活動をより充実したもの
にして欲しいです。

多くの挑戦と挫折を繰り返し
ながら成長することができます
た。その挑戦する機会を学生会
CSAを通して得ることができた
と思っています。日本大学を通して
出会った教職員の方々・友人・先輩
後輩・出会った全ての方々に心から
の感謝を結びとし、この場を借りて
深く御礼申し上げます。



国際関係学科四年

久保田真未

大学に入学した頃、私は「とにかく何かやらなければ。見つけなければ。」と大変焦っていたのを今でも覚えています。高校生までの枠にはまつた生活と異なり、大学生は全て自ら考え方を断り、行動していくからです。

しかし、明確な目標を持たず、憧れだけで入学した私にとつて、最初の頃は毎日過ごすのが精一杯で、驚きや発見の連続でした。

そんな不安も期待も入り混じつた私に、最も大きな成長を与えてくれたのが「文化会執行部」との出会いでした。校内で偶然声をかけて下さった先輩と話したことがきっかけでした。この活動に大学生活を費やそうと心から思えた瞬間でした。

「環境に左右されない。大事なのは、あなたが何をするのか、どう行動するかだよ。」この先輩からの言葉が今まで私を支えてくれたのだと確信しています。

してからは、本当に忙しい毎日でした。初めての事だらけの一年生から経験を重ね、三年目に委員長を務めさせていただいた時、私は誰もが笑顔でいられる空間をつくろうと決めました。

先輩方から学んだこと、関わる団体の方やお客様から教えてもらったこと、様々なことを仲間や後輩たちに伝えていきたい

と思い活動を始めました。最初はリーダーとしての行動や周りからプレッシャーに不安が大きかったのですが、そんな私を支えてくれたのは私が支えたいと思っていた仲間や後輩達の笑顔でした。「この活動が楽しいです。」と言つてくれることが嬉しくて私の頑張る源となりました。

一年間を通して様々な行事と関わつてきましたが、最も印象に残つたのは、第五九回富桜祭が二日目で中止になつた時のことです。約一年間かけて準備してきた三日間を最後までやれなかつた事は本当に悔しかつたです。しかし、このことは、私に大きな学びと成長をもたらしてくれたのも事実です。毎年、当たり前のよう開催してきた学園祭ですが、この三日間には、本当に多くの人の力が集まつていて、その一つ一つがどれもかかることの出来ないほど大切であつたと改めて実感しました。

また、毎日、過ごしている今、この瞬間も当たり前のようにあります。一人暮らしに憧れ、一生の友人との出会いを求め、あることに気付くことができました。そして、どの瞬間にもかけがえのない存在がいることに、心から感謝したいと思うことができました。

一人の力は小さくとも、人と人が互いに支え合い、刺激し合つて成長していくことでとても大きな力が生まれると思います。私は今まで多くの人に支えられて生きてきました。ここで学んだ多くの経験を生かし、真っ直ぐ前へ向いて歩んでいきます。

最後に、私に関わつて下さつた方々に、心から感謝しています。本当にありがとうございました。

最初のうちは、何をするにもわからないことばかりで、毎日先が見えない不安でいっぱいになりました。3年生になり「第40代委員長」になつた時も、その肩書きは、剣道をやつていた私の決して細いとは言えない肩にも重くのしかかりました。それほどこの名誉と伝統のある役職を、「私はやり切ることができるのだろうか」と不安だったのです。

また先輩が引退したことにより、部員が私一人になつてしまつた時は、本当に辛い時期でした。それでもたくさんの方々のご協力で、なんとか部員を増やすことが出来、そのあとは入つた部員たちにも助けられ、なん

で、大学生活を振り返ることも増えました。多少の不安はありました。一人暮らしに憧れ、一生の友人との出会いを求め、期待に胸を踊らせてここ三島にやつてきたことを思い出します。

そして私の大学生活は、体育会執行部の活動が大きな割合をしめていたように思います。1年生の時の体育会団体の新入生歓迎会の時に先々代の委員長で、中学から続ける剣道部の当時の部長である先輩が声をかけてくれたのが体育会執行部に入りました。

最初のうちは、何をするにもわからないことばかりで、毎日先が見えない不安でいっぱいになりました。3年生になり「第40代委員長」になつた時も、その肩書きは、剣道をやつていた私の決して細いとは言えない肩にも重くのしかかりました。それほどこの名誉と伝統のある役職を、「私はやり切ることができるのだろうか」と不安だったのです。

また先輩が引退したことにより、部員が私一人になつてしまつた時は、本当に辛い時期でした。それでもたくさんの方々のご協力で、なんとか部員を増やすことが出来、そのあとは入つた部員たちにも助けられ、なん

で、大学生活も残りわずかとなつた4年生の今、卒論と卒業後の実際に、文化会執行部に入部

に大きく影響したと思える。

3年生の秋は野球部が目指して
きた全国大会出場目前まできた。



国際交流学科四年

砂原 誠

静岡リーグ優勝、東海大会出場そして愛知、北陸の連盟を加えての全国大会代表決定戦まで駒を進めめたが、惜敗し、全国大会出場は逃した。

大学野球は、高校までの野球に比べ技術的レベルが高いだけでなく、強い意志と自主性が重んじられ、それまでの野球に対する取り組みが一変した。周囲は高校までの主力選手ばかりであり、その中でのレギュラー獲得はかなりの努力が必要であった。生活に勉学と野球以外の時間を取り入れる余裕など全くなかつた。私の大学生活は、野球一筋の4年間であった。

入部から2年間はひたすら練習を続けた。同級生の活躍は自分には大きな刺激となり、練習意欲をさらに高めた。常に2つの課題をもつて挑み、「自分には何が足りないのか」、2つ目は「自分がチームにできることは何か」であった。

2年目の秋によくレギュラーメンバーに入ることができ、出場の機会を得ることができたが、チームの勝利どころか、得点に絡む貢献をまったく果たせないままレギュラーメンバーにいる自分に対して歯がゆい毎日であった。そんな時の先輩達や同僚の叱咤激励はその後の成長

私自身は、静岡リーグで首位打者、その他ベストナインなどのこれまで考えられなかつた個人タイトルを得ることができ、テーマであつたチームでの自分の役割も少し見えてきた。

最終学年では、これまでの人生の中で最大のプレッシャーとも言えるキヤブテンに抜擢された。私にはキヤブテンとしてこのチームをまとめ、導く自信はまったくなかつた。まして、前年度までは現ヤクルトスワローズ松井先輩がつくり上げたチームを受けてのキヤブテンは、とても重荷であった。

しかし、誰かが受け継がなければならない仕事。松井さんのような強力なリーダーシップはなくとも、仲間(同僚)の連携と後輩達との協力関係を保ちながらチーム作りができると考へ、チーム一丸、選手一人人が一つ役割を持つてチームに関わる、私もキヤブテンという立場で働きかけることとした。チームの結束力は高まり、理想に近いチームで戦うことができたが、戦績結果は予想外であった。悔いが残る大学野球生活であつたが、これまで一緒に歩

んできた仲間との野球生活を通しての絆は生涯残る。

自分の全ての成長は、こうしたことでも計り知れない影響を受けることでしょう。

大学野球での監督はじめ、コーチ、スタッフ、そして仲間達の出会いは、まさに私にとって人間的成长の場でありました。これまで支えてくれた人々や仲間への「感謝」を決して忘れることはございません。本当にありがとうございました。

しかし、本学部に入学して真っ先に感じたことは、栄養士になるための勉強が多方面にわたつており、食に関することを学ぶだけでは自分の目標は達成できないという絶望感でした。大学生活が始まってから1年間は、毎日の授業についてゆくのと、その反動から来る休日を使つたレジャーとバイトで、私の目標はその形を少しずつ崩していくました。

そんな私にもう一度目標を思い出させてくれたのは、短大2年時の保育園での校外実習でした。そこでは、調理室と保育園が全面透明ガラスで仕切られており、園児達の様子を調理しながら見ることができます。ガラス窓に張り付きながら笑い合う園児達を見て、私はそこから園児達が食に大変興味を持っています。ガラス窓に張り付いた夢は持つていませんでしたが、「人の生活を食から支える仕事をしてみたい」という漠然とした目標がありましたか? 私には、「栄養士になりたい」というはつきりとした夢は持つていませんでしたが、「人の生活を食から支える仕事をしてみたい」という漠然とした目標があり

ました。それは、私自身が拒食症という摂食障害の経験を持ち、人が楽しく豊かな暮らしを営むために食がいかに大切かを、身をもつて知つたからです。飽食の時代となり食のファッショナ化が進む中、もう一度食べられることへの有難みを思い出してもらい、食生活を健全な方向へと導き、病気の発症を抑えるだけではなく、生き生きと充実した毎日を送れる手助けができたらと思っていました。

私が短大2年の時に発足した「プロジェクトM」の活動では、今まで学ぶことが多くあります。単独行動が多かつた私に、人と人との繋がりや思いやりが生活を豊かにする事を知つたのも活動の中でした。私の目標は未だ漠然としたままで残り少なくなった学生生活の中で私は目標は未だ漠然としたままであります。しかし、巡り合えた仲間達と一緒に過ごし、自分の未来に繋げられるような確かなものを得てゆきたいと思っています。

M」です。

私が短大2年の時に発足した「プロジェクトM」の活動では、今まで学ぶことが多くあります。単独行動が多かつた私に、人と人との繋がりや思いやりが生活を豊かにする事を知つたのも活動の中でした。私の目標は未だ漠然としたままで残り少なくなった学生生活の中で私は目標は未だ漠然としたままであります。しかし、巡り合えた仲間達と一緒に過ごし、自分の未来に繋げられるような確かなものを得てゆきたいと思っています。

はそれからもう一度この学問に対し興味を持つてもらえるよう環境づくりや食生活づくりを提案できたらと思ったのです。そして、その漠然とした新たな思いを助長してくれているのが、地域貢献目標とした、室伏ゼミ「プロジェクトM」です。

国際交流学科四年

砂原 誠

静岡リーグ優勝、東海大会出場そして愛知、北陸の連盟を加えての全国大会代表決定戦まで駒を進めめたが、惜敗し、全国大会出場は逃した。

私自身は、静岡リーグで首位打者、その他ベストナインなどのこれまで考えられなかつた個人タイトルを得ることができ、テーマであつたチームでの自分の役割も少し見えてきた。

最終学年では、これまでの人生の中で最大のプレッシャーとも言えるキヤブテンに抜擢された。私にはキヤブテンとしてこのチームをまとめ、導く自信はまったくなかつた。まして、前年度までは現ヤクルトスワローズ松井先輩がつくり上げたチームを受けてのキヤブテンは、とても重荷であった。

しかし、誰かが受け継がなければならない仕事。松井さんのような強力なリーダーシップはなくとも、仲間(同僚)の連携と後輩達との協力関係を保ちながらチーム作りができると考へ、チーム一丸、選手一人人が一つ役割を持つてチームに関わる、私もキヤブテンという立場で働きかけることとした。チームの結束力は高まり、理想に近いチームで戦うことができたが、戦績結果は予想外であった。悔いが残る大学野球生活であつたが、これまで一緒に歩

んできた仲間との野球生活を通しての絆は生涯残る。

自分の全ての成長は、こうしたことでも計り知れない影響を受けることでしょう。

大学野球での監督はじめ、コーチ、スタッフ、そして仲間達の出会いは、まさに私にとって人間的成长の場でありました。これまで支えてくれた人々や仲間への「感謝」を決して忘れることはございません。本当にありがとうございました。

しかし、本学部に入学して真っ先に感じたことは、栄養士になるための勉強が多方面にわたつており、食に関することを学ぶだけでは自分の目標は達成できないという絶望感でした。大学生活が始まってから1年間は、毎日の授業についてゆくのと、その反動から来る休日を使つたレジャーとバイトで、私の目標はその形を少しずつ崩していくました。

そんな私にもう一度目標を思い出させてくれたのは、短大2年時の保育園での校外実習でした。そこでは、調理室と保育園が全面透明ガラスで仕切られており、園児達の様子を調理しながら見ることができます。ガラス窓に張り付いた夢は持つていませんでしたが、「人の生活を食から支える仕事をしてみたい」という漠然とした目標がありましたか? 私には、「栄養士になりたい」というはつきりとした夢は持つていませんでしたが、「人の生活を食から支える仕事をしてみたい」という漠然とした目標があり

国際交流学科四年

砂原 誠

静岡リーグ優勝、東海大会出場そして愛知、北陸の連盟を加えての全国大会代表決定戦まで駒を進めめたが、惜敗し、全国大会出場は逃した。

私自身は、静岡リーグで首位打者、その他ベストナインなどのこれまで考えられなかつた個人タイトルを得ることができ、テーマであつたチームでの自分の役割も少し見えてきた。

最終学年では、これまでの人生の中で最大のプレッシャーとも言えるキヤブテンに抜擢された。私にはキヤブテンとしてこのチームをまとめ、導く自信はまったくなかつた。まして、前年度までは現ヤクルトスワローズ松井先輩がつくり上げたチームを受けてのキヤブテンは、とても重荷であった。

しかし、誰かが受け継がなければならない仕事。松井さんのような強力なリーダーシップはなくとも、仲間(同僚)の連携と後輩達との協力関係を保ちながらチーム作りができると考へ、チーム一丸、選手一人人が一つ役割を持つてチームに関わる、私もキヤブテンという立場で働きかけることとした。チームの結束力は高まり、理想に近いチームで戦うことができたが、戦績結果は予想外であった。悔いが残る大学野球生活であつたが、これまで一緒に歩

んできた仲間との野球生活を通しての絆は生涯残る。

自分の全ての成長は、こうしたことでも計り知れない影響を受けることでしょう。

大学野球での監督はじめ、コーチ、スタッフ、そして仲間達の出会いは、まさに私にとって人間的成长の場でありました。これまで支えてくれた人々や仲間への「感謝」を決して忘れることはございません。本当にありがとうございました。

しかし、本学部に入学して真っ先に感じたことは、栄養士になるための勉強が多方面にわたつおり、食に関することを学ぶだけでは自分の目標は達成できないという絶望感でした。大学生活が始まってから1年間は、毎日の授業についてゆくのと、その反動から来る休日を使つたレジャーとバイトで、私の目標はその形を少しずつ崩していくました。

そんな私にもう一度目標を思い出させてくれたのは、短大2年時の保育園での校外実習でした。そこでは、調理室と保育園が全面透明ガラスで仕切られており、園児達の様子を調理しながら見ることができます。ガラス窓に張り付いた夢は持つていませんでしたが、「人の生活を食から支える仕事をしてみたい」という漠然とした目標がありましたか? 私には、「栄養士になりたい」というはつきりとした夢は持つていませんでしたが、「人の生活を食から支える仕事をしてみたい」という漠然とした目標があり

ました。それは、私自身が拒食症という摂食障害の経験を持ち、人が楽しく豊かな暮らしを営むために食がいかに大切かを、身をもつて知つたからです。飽食の時代となり食のファッショナ化が進む中、もう一度食べられることへの有難みを思い出してもらい、食生活を健全な方向へと導き、病気の発症を抑えるだけではなく、生き生きと充実した毎日を送れる手助けができたらと思っていました。

私が短大2年の時に発足した「プロジェクトM」の活動では、今まで学ぶことが多くあります。単独行動が多かつた私に、人と人との繋がりや思いやりが生活を豊かにする事を知つたのも活動の中でした。私の目標は未だ漠然としたままであります。しかし、巡り合えた仲間達と一緒に過ごし、自分の未来に繋げられるような確かなものを得てゆきたいと思っています。

M」です。

私が短大2年の時に発足した「プロジェクトM」の活動では、今まで学ぶことが多くあります。単独行動が多かつた私に、人と人との繋がりや思いやりが生活を豊かにする事を知つたのも活動の中でした。私の目標は未だ漠然としたままであります。しかし、巡り合えた仲間達と一緒に過ごし、自分の未来に繋げられるような確かなものを得てゆきたいと思っています。

平成 21 年度 事 業 報 告

1 国際関係学部校友会会长賞授与

平成21年度日本大学国際関係学部在学生から、次の者が国際関係学部長から推薦された。

・校友会会长賞（副賞：記念品）は、国際関係学部5名に贈られ平成22年3月25日の卒業式当日、グランドプリンス新高輪において授与式が行われた。

・校友会会长賞（副賞：奨学金）は、国際関係学部6名及び短期大学部1名に贈られ平成22年4月3日開講式当日授与式が行われた。

①校友会会长賞（副賞：記念品）

祭 興斌（国際関係学科4年）
片柳 健太（国際関係学科4年）
木佐木枝里（国際文化学科4年）

松田 健嗣（国際交流学科4年）
松原 慎（国際交流学科4年）

②校友会会长賞（副賞：奨学金）

廣瀬 公彦（国際関係学科3年）
佐川 彩子（国際関係学科3年）
砂原 誠（国際交流学科3年）

久保田真未（国際関係学科3年）
御所園智仁（国際ビジネス情報学科3年）
高村 美帆（専攻科食物栄養専攻1年）

1 日大スポーツ08

1,300部を平成21年4月国際関係学部・短期大学部（三島）各学科の新入生全員に対して入学祝として渡した。

1 会報発行

会報40号を平成21年9月1日付け18頁3,200部を発行した。

1 各科同窓会等補助

①国際同窓会・桜栄会名簿作成に対する補助。（月）大学の体育会に対する補助。

②箱根駅伝応援に対する補助。（水）伊豆マラソン大会応援に対する補助。

1 常任幹事会

平成21年6月27日（土）16時から、日本大学国際関係学部校舎15号館5階において開催した。

1 幹事会

平成21年6月27日（土）17時30分から、日本大学国際関係学部校舎15号館5階において開催した。

1 総会並びに懇親会

平成21年7月18日（日）15時から、みしまプラザホテルにおいて開催した。

1 国際校友会公式WEBサイト開設

平成22年2月公式WEBサイト（ホームページ）を開設しました。

1 箱根駅伝応援

平成22年1月3日（日）復路スタート応援地点で応援した。また、平成22年1月2日（往路）3日（復路）の両日、国際関係学部体育会ダンス部・文化会吹奏楽部が箱根で応援に花を添えた。

1 伊豆マラソン大会応援

平成22年2月21日（日）修善寺駅北口スタート応援地点及び三島市役所別館ゴール応援地点で国際関係学部体育会ダンス部・文化会吹奏楽部と応援した。

平成 21 年度 収 支 決 算 書

（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）

（単位:円）

支 出 の 部				収 入 の 部			
項 目	予 算 額	決 算 額	差 額	項 目	予 算 額	決 算 額	差 額
獎 学 費	520,000	722,750	△ 202,750	会 費 収 入	14,630,000	14,489,000	141,000
日大スポーツ購入費	360,000	360,000	0	雜 収 入	406,260	496,203	△ 89,943
校友会報発行費	270,000	228,900	41,100				
各科同窓会等補助	2,000,000	2,370,000	△ 370,000				
学生団体補助	2,200,000	550,000	1,650,000				
総会並びに懇親会費	600,000	813,060	△ 213,060				
箱根駅伝応援補助	500,000	409,950	90,050				
本部校友会会費	470,000	470,000	0				
卒業記念品費	4,020,000	3,197,250	822,750				
会議会合費	600,000	447,042	152,958				
通信運搬費	200,000	256,220	△ 56,220				
事務費	600,000	717,204	△ 117,204				
雜費	500,000	1,699,601	△ 1,199,601				
予備費	100,000	0	100,000				
計	12,940,000	12,241,977	598,023	計	15,036,260	14,985,203	51,057
基 金 繰 入 額	0	0	0	基 金 繰 出 額	0	0	0
次 年 度 繰 越 金 (繰越金)	17,228,570	17,875,536	△ 646,966	前 年 度 繰 越 金	15,132,310	15,132,310	0
支 出 の 部 合 計	30,168,570	30,117,513	51,057	収 入 の 部 合 計	30,168,570	30,117,513	51,057

貸 借 対 照 表

（平成 21 年 3 月 31 日現在）

（単位:円）

借 方		貸 方	
項 目	金 額	項 目	金 額
普 通 預 金	33,235,536	基 金	15,000,000
		前 年 度 繰 越 金	25,000,000
		本 年 度 繰 入 額	0
		本 年 度 繰 出 額	△ 10,000,000
		次 年 度 繰 越 金	18,235,536
		未 払 金	360,000
		前 受 金	0
		繰 越 金	17,875,536
合 計	33,235,536	合 計	33,235,536

基 金 の 内 訳

（単位:円）

項 目	前 年 度 繰 越 額	本 年 度 繰 入 額	本 年 度 繰 出 額	合 計
普 通 預 金	25,000,000	0	△ 10,000,000	15,000,000
国際関係学部校友会奨学金基金	0	0	△ 10,000,000	△ 10,000,000
計	25,000,000		△ 10,000,000	15,000,000

平成 21 年度収入について関係帳簿並びに証拠書類を精査いたしましたが、記帳その他正確であることを認めます。

平成 22 年 5 月 6 日

会計監査 染谷昭彦印
谷川守彦印
藤本彦彦印

平成 22 年度 事 業 計 画

- 1 国際関係学部校友会会長賞授与（副賞：奨励金もしくは奨学金）
 日本大学国際関係学部及び短期大学部を平成23年3月卒業・4月進級の予定者を対象とする。
 ・校友会会長賞並びに奨励金 国際関係学部 4年卒業予定者 各学科1名
 短期大学部 2年卒業予定者 各学科1名
 ・校友会会長賞並びに奨学金 国際関係学部 各学科2・3年生 各学年1名
 短期大学部 各学科1年生 各1名
- 1 日大スポーツ09
 1,400部を平成22年4月国際関係学部・短期大学部（三島）各学科の新入生全員に対して入学祝として渡す。
- 1 会報発行
 会報41号（平成22年9月1日付）18頁3,200部。
- 1 各科同窓会等補助
 ①各科名簿編集の推進及び各科同窓会行事に対する補助。
 ②大学体育会・文化会に対する補助。
 ③箱根駅伝応援に対する補助。
 ④伊豆マラソン大会応援に対する補助。
- 1 常任幹事会
 平成22年7月10日(土)16時から、日本大学国際関係学部校舎15号館2階において開催する。
- 1 幹事会
 平成22年7月10日(土)17時から、日本大学国際関係学部校舎15号館2階において開催する。
- 1 総会並びに懇親会
 平成22年8月21日(土)16時30分から、みしまプラザホテルにおいて開催する。
- 1 国際校友会公式WEBサイト更新
- 1 箱根駅伝応援
 平成23年1月3日(月)復路スタート応援地点で応援する。また、平成23年1月2日(日)往路ゴール応援地点及び平成23年1月3日(月)復路スタート応援地点で国際関係学部体育会所属ダンス部・文化会所属吹奏楽部の学生が応援に参加する。
- 1 伊豆マラソン大会応援
 平成23年2月20日(日)修善寺駅北口スタート応援地点及び三島市役所別館ゴール応援地点で国際関係学部体育会所属ダンス部・文化会所属吹奏楽部の学生が応援に参加する。

平成 22 年度 収 支 予 算 書

(平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)

(単位:円)

支 出 の 部				収 入 の 部			
項 目	本年度予算額	前年度予算額	差 額	項 目	本年度予算額	前年度予算額	差 額
奨 学 費	630,000	520,000	110,000	会 費 収 入	15,137,000	14,630,000	507,000
日大スポーツ購入費	420,000	360,000	60,000	雜 収 入	496,203	406,260	89,943
校友会報発行費	250,000	270,000	△ 20,000				
各科同窓会等補助	2,000,000	2,000,000	0				
学 生 団 体 補 助	1,500,000	2,200,000	△ 700,000				
総会並びに懇親会費	800,000	600,000	200,000				
箱根駅伝応援補助	500,000	500,000	0				
本部校友会会費	470,000	470,000	0				
卒 業 記 念 品 費	3,300,000	4,020,000	△ 720,000				
会 議 会 合 費	500,000	600,000	△ 100,000				
通 信 運 搬 費	250,000	200,000	50,000				
ホーメページ運営費	200,000	0	200,000				
事 務 費	700,000	600,000	100,000				
雑 費	700,000	500,000	200,000				
予 備 費	100,000	100,000	0				
計	12,320,000	12,940,000	△ 620,000	計	15,633,203	15,036,260	596,943
基 金 繼 入 額	0	0	0	基 金 繼 出 額	0	0	0
次 年 度 繼 越 金 (繰越金)	21,188,739	17,228,570	3,960,169	前 年 度 繼 越 金	17,875,536	15,132,310	2,743,226
支 出 の 部 合 計	33,508,739	30,168,570	3,340,169	収 入 の 部 合 計	33,508,739	30,168,570	3,340,169

基 金 の 内 訳

(単位:円)

項 目	前 年 度 繼 越 額	本 年 度 繼 入 額	本 年 度 繼 出 額	合 计
基 金	15,000,000	0	0	15,000,000
日本大学創立150周年記念事業基金準備金	5,000,000	0	0	5,000,000
国際関係学部創立50周年記念事業基金準備金	5,000,000	0	0	5,000,000
三島学園開設75周年記念事業基金準備金	5,000,000	0	0	5,000,000
計	15,000,000	0	0	15,000,000

平成 22 年度役員

任期(H21.4.1 ~H24.3.31)

役	職	氏	名(在学年度)	役	職	氏	名(在学年度)	役	職	氏	名(在学年度)
教 幹	養			会 副	長	相田	信次 (44·45)	顧 顧	問	西村	美枝子 (22~24)
幹	事	高田日出太郎 (21)		會 副	長	宮下	公雄 (54~57)	顧 顧	問	奥田	吉郎 (23~25)
幹	事	萩野新一郎 (21)		會 副	長	横山	雅人 (56~59)	顧 顧	問	瀬川	一男 (23~25)
幹	事	馬場 康夫 (21·22)		會 副	長	濱田	義之 (45)	顧 顧	問	小椋	貞夫 (28·29)
幹	事	清 好一 (21~23)		會 副	長	山田	浩子 (41·42)	顧 顧	問	石川	貞夫 (28·29)
幹	事	石垣 義親 (21~23)		會 副	長	江本	博勝 (46·47)	顧 顧	問	角田	義廣 (30·31)
幹	事	小野 真一 (21~23)		會 副	長	浅田	義志子 (39·40)	顧 顧	問	平井	千枝 (34·35)
幹	事	澤 直和 (21~23)		會 副	長	弓場	重明 (44·45)	顧 顧	問	高田	菊平 (36)
幹	事	滝川 昇 (22·23)		幹 常任幹事	長	田中	由雄 (42·43)	顧 顧	問	柴田	正 (41·42)
幹	事	高橋 文吉 (22·23)	(庶務担当)	幹 常任幹事	長	関野	幹雄 (48·49)	顧 顧	問	小早川	隆義 (42·43)
幹	事	堀井 佳勇 (22·23)	(庶務担当)	幹 常任幹事	長	関野	浩二 (57~60)				
幹	事	勝村 一男 (22·23)	(会計担当)	幹 常任幹事	長	山瀬	匠 (08·09)	参	与	渡辺	洋子 (35·36)
幹	事	中島 知之 (22·23)	(会計担当)	幹 常任幹事	長	瀬川	晶子 (52·53)	参	与	岩崎	一雄 (43·44)
幹	事	溝口 梅男 (22·23)		幹 常任幹事	長	金田	豊 (23~25)	参	与	金井	美智子 (38·39)
幹	事	中塙 利雄 (22~24)		幹 常任幹事	長	白鳥	義仁 (25·26)				
幹	事	北條 晃 (22~24)		幹 常任幹事	長	田村	実 (26·27)				
幹	事	長田 渉 (22~24)		幹 常任幹事	長	鈴木	義樹 (28·29)				
幹	事	山内 茂 (22~24)		幹 常任幹事	長	市川	紀子 (35·36)				
幹	事	川口 正信 (22~24)		幹 常任幹事	長	土屋	貞明 (42·43)				
幹	事	小林 昭雄 (22~24)		幹 常任幹事	長	林田	孝二 (43)				
幹	事	甲木 康夫 (22~24)		幹 常任幹事	長	山口	良児 (43·44)				
幹	事	木村 幸夫 (23~25)		幹 常任幹事	長	平岩	美知子 (44·45)				
幹	事	小林 栄三 (23~25)		幹 常任幹事	長	久保田	博明 (45·46)				
幹	事	勝俣 敏充 (23~25)		幹 常任幹事	長	遠藤	晶子 (45·46)				
幹	事	森下 菊美 (23~25)		幹 常任幹事	長	西野	和衛 (46·47)				
幹	事	播本 弘 (23~25)		幹 常任幹事	長	瀬川	宏 (47·48)				
幹	事	長谷川 駿一 (23~25)		幹 常任幹事	長	神戸	絹代 (47·48)				
幹	事	徳増 清二 (23~25)		幹 常任幹事	長	鈴木	允 (48)				
幹	事	石野 進 (23~25)		幹 常任幹事	長	大島	裕二 (52·53)				
幹	事	石垣 恭弘 (23~25)		幹 常任幹事	長	露木	ひろみ (53·54)				
幹	事	井上 忠彦 (23~25)		幹 常任幹事	長	斎藤	聰 (54~57)				
幹	事	杉山 吉房 (23~25)		幹 常任幹事	長	柳川	浩昭 (54~57)				
幹	事	服部 房夫 (23~25)		幹 常任幹事	長	高野	真一 (54~57)				
幹	事	浅海 武夫 (23~25)		幹 常任幹事	長	松原	裕二 (54~57)				
幹	事	石川 進 (25·26)		幹 常任幹事	長	小松	徳弘 (56~59)				
幹	事	長倉 祐作 (25·26)		幹 常任幹事	長	高野	誠 (57~60)				
幹	事	宮崎 茂樹 (25·26)		幹 常任幹事	長	山本	宏治 (57~60)				
幹	事	光信 優 (26·27)		幹 常任幹事	長	勝又	義博 (57~60)				
幹	事	浅原 好胤 (26·27)		幹 常任幹事	長	野田	正人 (62·63)				
幹	事	高橋 英明 (26·27)		幹 常任幹事	長	久保	和之 (63·01)				
幹	事	荒川 通 (26·27)		幹 常任幹事	長	廣岡	達郎 (01~04)				
幹	事	塙田 浩 (26·27)		幹 常任幹事	長	齋藤	実 (01~04)				
幹	事	大井 徹也 (26·27)		幹 常任幹事	長	藤澤	博隆 (03·04)				
幹	事	稻葉 昭 (26·27)		幹 常任幹事	長	明石	浩一 (05~09)				
幹	事	熊崎 文二 (26·27)		幹 会計監査	長	渡邊	孝哉 (09·10)				
幹	事	輿水 啓一 (26·27)		幹 会計監査	長	染谷	徳昭 (42·43)				

役職氏名(在学年度)

商経・二部

幹事	村山 要(30·31)
幹事	杉山敏明(34·35)
幹事	渡辺 勝(38·39)
幹事	久保田 勝(38·39)
幹事	佐野 勝己(39·40)
幹事	勝谷 哲雄(40·41)
幹事	土屋 忠得(40·41)
幹事	鈴木 正八(44·45)
幹事	津田 正克(50·51)
幹事	甲斐 幸博(51·52)
幹事	甲斐 忠則(51·52)
幹事	後藤 善夫(52·53)
幹事	加藤 喜章(53·54)
幹事	鈴木 理平(54·55)
幹事	内野 祥司(55·56)
幹事	守野 敏也(55·56)
幹事	山田 良(55·56)
幹事	杉山 勝行(57·58)
幹事	鈴木 文量(59·60)
幹事	金城三十二(59·60)
幹事	武井 直子(60·61)
幹事	土佐谷 泰子(61·62)
幹事	田伏 正和(01·02)
幹事	名雪しげみ(01·02)
幹事	菅江 稔(02·03)
幹事	明石知恵美(02·03)
幹事	川原 浩貴(03·04)
幹事	小野 和彦(03·04)
幹事	坂口 聖剛(03·04)
幹事	今川 高宏(04·05)
幹事	町野 智彦(05·06)
幹事	池田 昌史(08·09)
幹事	成田 伸行(08·09)

桜栄会

幹事	山口 玲子(34·35)
幹事	阿部 麻子(35·36)
幹事	木崎有里子(35·36)
幹事	渡辺かよ子(35·36)
幹事	板垣 和代(36·37)
幹事	佐野 茂子(36·37)
幹事	小泉 陽子(36·37)
幹事	中村満里子(37·38)
幹事	川口 裕子(37·38)
幹事	米山日出子(37·38)
幹事	小坂 照子(38·39)
幹事	塩谷 まさよ(38·39)
幹事	井原 康恵(38·39)

役職氏名(在学年度)

幹事	小永井京子(43·44)
幹事	高橋真理子(44·45)
幹事	榎本睦美(46·47)
幹事	石井千枝子(45·46)
幹事	松村 啓子(51·52)
幹事	佐野 有美(52·53)
幹事	大塚久子(52·53)
幹事	武田 裕美(55·56)
幹事	勝亦幾代(56·57)
幹事	北川早苗(56·57)
幹事	山崎睦子(57·58)
幹事	高野直美(58·59)
幹事	阿部昭子(59·60)
幹事	神田留美子(60·61)
幹事	稻葉桂子(60·61)
幹事	橋本由恵(62·63)
幹事	白石 忍(63·1)
幹事	渡邊陽子(01·02)
幹事	高鹿真弓(03·04)
幹事	片柳容子(03·04)
幹事	秋山陽子(04·05)
幹事	松本佳代子(05·06)
幹事	古屋美帆(06·07)
幹事	山崎幸恵(08·09)
幹事	佐野隆子(09·10)
幹事	成島敦子(09·10)
幹事	星 美保子(10·11)
幹事	工藤美咲(10·11)

商経・一部

幹事	萩野谷 肇(41·42)
幹事	上田定義(41·42)
幹事	加藤久貴(46·47)
幹事	秋山稔明(46·47)
幹事	前田正丈(47·48)
幹事	野田 栄(47·48)
幹事	多田清吾(47·48)
幹事	辻本真由美(51·52)
幹事	濱田順二(53·54)
幹事	吉川浩司(54·55)
幹事	後藤幸江(58·59)
幹事	斎藤みどり(59·60)
幹事	長澤裕子(59·60)
幹事	中村由美子(61·62)
幹事	南 まり子(03·04)
幹事	小池恭子(04·05)
幹事	白川美保(05·06)
幹事	小柴慶子(06·07)
幹事	勝又美咲(16·17)

役職氏名(在学年度)

幹事	廣田 均(26·27)
幹事	栗原恒夫(26·27)
幹事	後藤守雄(26·27)
幹事	黒滝祐司(27·28)
幹事	小林義尚(27·28)
幹事	田村栄一(27·28)
幹事	関本文彦(27·28)
幹事	真部喜孝(27·28)
幹事	結城勇一(27·28)
幹事	長沢龍助(27·28)
幹事	佐々木凱男(27·28)
幹事	川崎一成(27·28)
幹事	丸山富美男(28)
幹事	坂詰正衛(28·29)
幹事	望月知林(28·29)
幹事	安東安生(29·30)
幹事	田嶋文義(29·30)
幹事	寺崎哲郎(29·30)
幹事	関哲男(29·30)
幹事	林田達郎(29·30)
幹事	森伸夫(30·31)
幹事	道見俊廣(30·31)
幹事	小野武(30·31)
幹事	馬場妙子(30·31)
幹事	屋鋪公平(30·31)
幹事	堀幸男(30·31)
幹事	根岸元宏(31·32)
幹事	渡部浩司(31·32)
幹事	大村日出雄(32)
幹事	甲田知由(33)
幹事	吉野洋一(35)
幹事	鈴木肇(35)
幹事	御供政紀(35·36)
幹事	小澤文郎(36)
幹事	大西良雄(37)
幹事	小川武司(37)
幹事	多田清太郎(37)
幹事	坂口正剛(37)
幹事	小石川宣照(37)
幹事	勝亦誠(38)
幹事	栗山康雄(39)
幹事	杉田朋昭(39)
幹事	両角勇(42)
幹事	高藤省三(49)
幹事	滝本博(53)

桜文会

幹事	岩崎尚枝(41·42)
----	-------------

役	職	氏名(在学年度)
幹	事	岡本ゆう子(02・03)
幹	事	大山妙子(02・03)
幹	事	羽田真理子(02・03)
幹	事	望月ゆりか(02・03)
幹	事	安田ひとみ(03・04)
幹	事	鈴木春美(03・04)
幹	事	西村直子(03・04)
幹	事	宮本久美子(03・04)
幹	事	渡邊真理子(03・04)
幹	事	小澤知子(03・04)
幹	事	出口幸子(04・05)
幹	事	井上雅代(04・05)
幹	事	西岡かおり(04・05)
幹	事	田村美保(04・05)
幹	事	原田愛(04・05)
幹	事	西山志保(05・06)
幹	事	関谷園子(05・06)
幹	事	渡邊千史(05・06)
幹	事	川口由美子(05・06)
幹	事	池谷尚美(05・06)
幹	事	中村理恵子(05・06)
幹	事	遠藤理愛(05・06)
幹	事	神尾かほり(05・06)
幹	事	遠藤里都美(06・07)
幹	事	鈴木寛子(06・07)
幹	事	山本静香(06・07)
幹	事	佐藤純子(06・07)
幹	事	三須洋美(06・07)
幹	事	齊藤真由美(06・07)
幹	事	和泉久美(07・08)
幹	事	小野澤美和(07・08)
幹	事	小林世以子(07・08)
幹	事	中林香子(07・08)
幹	事	横田忍(07・08)
幹	事	中橋智子(07・08)
幹	事	神戸アリ沙(08・09)
幹	事	兼房華(08・09)
幹	事	長倉智恵子(08・09)
幹	事	大塚由香(08・09)
幹	事	佐藤美幸(08・09)
幹	事	大水由佳(09・10)
幹	事	田村理絵(09・10)
幹	事	内田惠(09・10)
幹	事	渡邊明子(09・10)
幹	事	植野敦子(09・10)
幹	事	佐野文美(10・11)
幹	事	秋山左知子(11・12)
幹	事	鞍本鮎美(11・12)
役	職	氏名(在学年度)
幹	事	四條里美(53・54)
幹	事	鶯巣かほる(53・54)
幹	事	藤原和美(53・54)
幹	事	原田純子(54・55)
幹	事	池谷美津子(54・55)
幹	事	中澤由利子(54・55)
幹	事	佐伯絵里子(54・55)
幹	事	伊藤若菜(54・55)
幹	事	吉田麻理子(54・55)
幹	事	野中美香(55・56)
幹	事	藤田建江(55・56)
幹	事	小澤里佳子(56・57)
幹	事	深津久美子(56・57)
幹	事	石谷美智子(56・57)
幹	事	田中恵子(57・58)
幹	事	嶋由樹子(57・58)
幹	事	鈴木江利子(57・58)
幹	事	西田昭子(57・58)
幹	事	鈴木敦子(58・59)
幹	事	武藤さゆり(58・59)
幹	事	荻沢洋子(58・59)
幹	事	平澤佳代子(58・59)
幹	事	山田明子(58・59)
幹	事	谷井かほる(58・59)
幹	事	鈴木佳乃(58・59)
幹	事	塩崎朝子(59・60)
幹	事	加藤容子(59・60)
幹	事	藤波佳乃(59・60)
幹	事	藤井由紀子(59・60)
幹	事	穂谷野弥生(60・61)
幹	事	小島みちよ(60・61)
幹	事	久保玲華(61・62)
幹	事	山下朋子(61・62)
幹	事	袴田則子(61・62)
幹	事	鶯尾貴子(62・63)
幹	事	田上順子(62・63)
幹	事	山口美樹(62・63)
幹	事	大須賀美穂(62・63)
幹	事	櫻田智栄美(63・01)
幹	事	三宅理砂子(63・1)
幹	事	野上香(63・1)
幹	事	日吉美由紀(63・1)
幹	事	勝俣千穂(63・1)
幹	事	田村尚子(01・02)
幹	事	杉村智恵(01・02)
幹	事	湯原里美(01・02)
幹	事	久保田裕子(01・02)
幹	事	市川智香(01・02)
役	職	氏名(在学年度)
幹	事	望月千登世(38・39)
幹	事	秋山幸子(39・40)
幹	事	関口瑞(39・40)
幹	事	福尾つや子(39・40)
幹	事	神部文子(39・40)
幹	事	高橋美鶴(40・41)
幹	事	伊達伸子(40・41)
幹	事	石黒栄美子(41・42)
幹	事	鳥羽山資子(41・42)
幹	事	秋山悦子(41・42)
幹	事	渡辺あき子(41・42)
幹	事	嶋美也子(41・42)
幹	事	伊藝睦(41・42)
幹	事	駿藤春代(42・43)
幹	事	石原泰代(42・43)
幹	事	篠田光代(42・43)
幹	事	影山貴美枝(43・44)
幹	事	土屋時子(43・44)
幹	事	柴田敬子(44・45)
幹	事	川村千代子(45・46)
幹	事	辻緑(45・46)
幹	事	小林秀実(45・46)
幹	事	鈴木清美(46・47)
幹	事	佐藤奈津美(47・48)
幹	事	鈴木佳津江(47・48)
幹	事	神田みつ子(47・48)
幹	事	勝又昌代(48・49)
幹	事	原康子(48・49)
幹	事	碓井久美子(49・50)
幹	事	岩田智加子(50・51)
幹	事	大沼めぐみ(50・51)
幹	事	峰田富美子(51・52)
幹	事	山口智佳子(51・52)
幹	事	堤令子(52・53)
幹	事	白井道代(52・53)
幹	事	石橋治代(52・53)
幹	事	岩崎美浪(52・53)
幹	事	竹内厚子(52・53)
幹	事	宮澤正江(52・53)
幹	事	遠藤豊美(52・53)
幹	事	長谷川規子(52・53)
幹	事	松川順子(52・53)
幹	事	松崎光子(52・53)
幹	事	中澤小雪(53・54)
幹	事	齋藤裕子(53・54)
幹	事	長田智子(53・54)
幹	事	押見恵美子(53・54)
幹	事	船石圭子(53・54)

役	職	氏	名(在学年度)	役	職	氏	名(在学年度)	役	職	氏	名(在学年度)	
学	部			幹	事	隅田 優美 (17·18)	幹	事	尾間 裕仁 (11·12)			
幹	事	遠藤日出夫 (37·)		幹	事	岩代 美貴 (18·19)	幹	事	笠原奈津子 (11·12)			
幹	事	渡辺博夫 (37·)		幹	事	加藤 未奈 (18·19)	幹	事	宮田朋子 (11·12)			
幹	事	江川 洋 (42·)		幹	事	深谷友香里 (18·19)	幹	事	田角典子 (12·13)			
幹	事	藤幡俊量 (46·)		幹	事	豊田 彩香 (18·19)	幹	事	小林由佳 (12·13)			
国	際			幹	事	野口明日香 (18·19)	幹	事	赤川智海 (12·13)			
幹	事	川口智彦 (54~57)		幹	事	藤井 里奈 (18·19)	幹	事	小出祐子 (12·13)			
幹	事	諏訪部 健 (55~58)		幹	事	松井志保美 (18·19)	幹	事	峯松園美 (13·14)			
幹	事	木村貴美和 (55~58)		幹	事	萬両 美幸 (18·19)	幹	事	山田美穂 (13·14)			
幹	事	平野雅之 (56~59)		幹	事	福島 健嗣 (18·19)	幹	事	遠藤友海 (13·14)			
幹	事	福田勝弘 (56~59)		幹	事	村松 海 (18·19)	幹	事	清水磨希子 (13·14)			
幹	事	宇田隆康 (56~59)		幹	事	富井 映里 (19·20)	幹	事	高橋由実 (13·14)			
幹	事	三浦 仁 (57~60)		幹	事	木下涼平 (19·20)	幹	事	米永寿子 (13·14)			
幹	事	横田 正 (57~60)		幹	事	中安 美咲 (19·20)	幹	事	渡邊晃子 (13·14)			
幹	事	森田克彦 (58~61)		幹	事	藤井 ゆかり (19·20)	幹	事	岩田直子 (14·15)			
幹	事	佐上菊二 (58~61)		幹	事	山本 靖子 (19·20)	幹	事	大沼秋桜子 (14·15)			
幹	事	小塚敏久 (58~61)		幹	事	三宅ひとみ (19·20)	幹	事	高橋美絵子 (14·15)			
幹	事	横溝泰蔵 (59~62)		幹	事	青木 裕也 (20·21)	幹	事	石渡麻史 (14·15)			
幹	事	池尻敏広 (59~62)		幹	事	小林可南子 (20·21)	幹	事	服部直美 (14·15)			
幹	事	山田竜作 (60~63)		幹	事	石政未希 (20·21)	幹	事	秋山絵操 (14·15)			
幹	事	土田洋二 (60~63)		幹	事	岩井友紀 (20·21)	幹	事	山田真理子 (15·16)			
幹	事	桑原健治 (60~63)		幹	事	澤木心美 (20·21)	幹	事	田中順子 (15·16)			
幹	事	渡辺武一郎 (60~63)		幹	事	杉本愛季 (20·21)	幹	事	栗田裕子 (15·16)			
幹	事	木俣かおり (61~01)		幹	事	西原萌恵 (20·21)	幹	事	小林久美 (15·16)			
幹	事	増原伸一 (61~01)		幹	事	森山麻里奈 (20·21)	幹	事	河原崎朱里 (15·16)			
幹	事	犬塚重暁 (63~03)		幹	事	横山千恵 (20·21)	幹	事	平澤怜子 (15·16)			
幹	事	野口 厚 (63~03)		幹	事	市川佳夏子 (20·21)	幹	事	榎原友希 (15·16)			
幹	事	藤田 隆 (63~03)		幹	事	加藤あおい (20·21)	幹	事	田村美沙子 (15·16)			
幹	事	佐藤淳悦 (01~04)		幹	事	宮下 弘之 (20·21)	幹	事	植松明菜 (15·16)			
幹	事	高橋博樹 (01~04)			工	科		幹	事	荻島宏予 (15·16)		
幹	事	長谷川哲夫 (01~04)		幹	事	宮下正俊 (39·40)	幹	事	渡邊裕未 (15·16)			
幹	事	村上東洋男 (01~04)		幹	事	菅沼 弘 (39·40)	幹	事	山田沙織 (15·16)			
幹	事	須田啓一郎 (01~04)		幹	事	中山義昭 (41·42)	幹	事	宇野浩吏 (16·17)			
幹	事	原田恭平 (01~04)		幹	事	渡辺 清 (42·43)	幹	事	星野成幸 (16·17)			
幹	事	椿 昌寛 (01~04)		幹	事	赤地哲也 (42·43)	幹	事	渡邊尚 (16·17)			
幹	事	南 敦子 (02~05)		幹	事	吉田 力 (44·45)	幹	事	鈴木佳奈子 (16·17)			
幹	事	門脇正明 (02~05)		幹	事	長倉良幸 (44·45)	幹	事	中西麻純 (16·17)			
幹	事	藤原誠吾 (02~05)		幹	事	島田雷太 (44·45)	幹	事	増島清美 (16·17)			
幹	事	前田智也 (02~05)		幹	事	早川清文 (45·46)	幹	事	萩原美香 (16·17)			
幹	事	坂井利彰 (02~05)		幹	事	三枝和彦 (46·47)	幹	事	平川綾乃 (16·17)			
幹	事	小田純子 (02~05)		幹	事	勝間田太住 (47·48)	幹	事	綾部久美子 (16·17)			
幹	事	田辺裕司 (02~05)		幹	事	天野寿一 (48·49)	幹	事	桑山理沙 (16·17)			
幹	事	田松正樹 (02~05)		幹	事	上原豊和 (52·53)	幹	事	飯田泰恵 (17·18)			
幹	事	西岡昌仁 (02~05)		幹	事	西家勝彦 (52·53)	幹	事	石川裕里佳 (17·18)			
幹	事	鎌田文一 (02~05)		幹	事	埜村光伸 (53·54)	幹	事	中山朋美 (17·18)			
幹	事	沼尻正則 (03~06)		幹	事	勝呂千明 (53·54)	幹	事	田中沙季 (17·18)			
幹	事	若松はるか (03~06)		幹	事	鈴木啓太郎 (54·55)	幹	事	堀田裕貴 (17·18)			
幹	事	三宅大介 (03~06)						幹	事	瀧 智草 (17·18)		

役	職	氏名(在学年度)
幹	事	内村 彩(14~17)
幹	事	渡邊賢治(14~17)
幹	事	井出知里(15~18)
幹	事	石川奈緒子(15~18)
幹	事	井所博志(15~18)
幹	事	金田亜由美(15~18)
幹	事	橋本流音(15~18)
幹	事	小倉宏紀(15~18)
幹	事	宮腰治憲(15~18)
幹	事	田野口皓太(15~18)
幹	事	室伏弘己(15~18)
幹	事	菅家奈都美(15~18)
幹	事	藁谷和正(17·18)
幹	事	岩井小百合(16~19)
幹	事	鈴木弘明(16~19)
幹	事	竹川光一朗(16~19)
幹	事	長谷川 翼(16~19)
幹	事	黒子佳恵(16~19)
幹	事	大森未奈子(16~19)
幹	事	笠倉 諒(16~19)
幹	事	中山優貴(17~20)
幹	事	浅井啓悟(17~20)
幹	事	芹沢 崇(17~20)
幹	事	関谷紀志(17~20)
幹	事	長谷川孝洋(17~20)
幹	事	勝呂 孝(17~20)
幹	事	中島由人(17~20)
幹	事	羽田弥咲(17~20)
幹	事	篠原直人(17~20)
幹	事	笠原菜央子(17~20)
幹	事	高橋絵理(17~20)
幹	事	古山結子(17~20)
幹	事	永野映吏可(18~21)
幹	事	勝又智子(18~21)
幹	事	西岡 基(18~21)
幹	事	後藤義明(18~21)
幹	事	後藤奈津子(18~21)
幹	事	祭 興斌(18~21)
幹	事	松田健嗣(18~21)
幹	事	片柳健太(18~21)
幹	事	松原 慎(18~21)
幹	事	木佐木枝里(18~21)
幹	事	金井尊史(18~21)
役	職	氏名(在学年度)
幹	事	松下夏葉(11~14)
幹	事	竹腰真裕子(11~14)
幹	事	後藤暢宏(11~14)
幹	事	竹村 直(11~14)
幹	事	木下真由美(11~14)
幹	事	小森美雪(11~14)
幹	事	若月朋子(11~14)
幹	事	杉野美紀(11~14)
幹	事	斎藤久美絵(11~14)
幹	事	川村友江(11~14)
幹	事	猪狩博織(11~14)
幹	事	山下政幸(11~14)
幹	事	小林久美(11~14)
幹	事	堀本晴子(11~14)
幹	事	鈴木さや夏(13·14)
幹	事	村山景子(13·14)
幹	事	川下知恵(12~15)
幹	事	鹿内隼人(12~15)
幹	事	斎藤慎亮(12~15)
幹	事	山本克幸(12~15)
幹	事	拓植由美子(12~15)
幹	事	豊永有美子(12~15)
幹	事	原 順子(12~15)
幹	事	平野文星(14·15)
幹	事	小澤有礼(12~15)
幹	事	大野達男(12~15)
幹	事	太田孝一(13~16)
幹	事	高巣幸喜(13~16)
幹	事	山川利雄(13~16)
幹	事	浅野雄介(13~16)
幹	事	筒井友恵(13~16)
幹	事	本多加奈(13~16)
幹	事	新屋優子(13~16)
幹	事	山本彩子(13~16)
幹	事	小栗美緒(13~16)
幹	事	勅使河原武史(13~16)
幹	事	相見大輔(13~16)
幹	事	板橋紗綾香(13~16)
幹	事	武田泰弘(13~16)
幹	事	浅石友里子(13~16)
幹	事	渡邊頌子(13~16)
幹	事	岩崎康全(13~16)
幹	事	川井奈津子(14~17)
幹	事	脇田千草(14~17)
幹	事	綱島 昇(14~17)
幹	事	塚田泰章(14~17)
幹	事	杉町カウエ(14~17)
幹	事	小川 淳(14~17)
役	職	氏名(在学年度)
幹	事	清水 建(03~06)
幹	事	小塚達郎(03~06)
幹	事	紅林美智子(03~07)
幹	事	佐藤治夫(04~07)
幹	事	千野琢磨(04~07)
幹	事	日宇功太(04~07)
幹	事	渡辺将之(04~07)
幹	事	杉山文予(05~08)
幹	事	江島照美(05~08)
幹	事	室伏寛美(05~08)
幹	事	田尻美三(05~08)
幹	事	青木 徹(05~08)
幹	事	大嶽龍一(05~08)
幹	事	沖倉保宏(06~09)
幹	事	今川 慶(06~09)
幹	事	田中智康(06~09)
幹	事	久芳 仁(06~09)
幹	事	植松信二(06~09)
幹	事	小林寿成(07~10)
幹	事	望月雅子(07~10)
幹	事	斎藤美根子(07~10)
幹	事	綴纏健太郎(07~10)
幹	事	佐竹 篤(07~10)
幹	事	小泉梨恵(07~10)
幹	事	高島寛幸(08~11)
幹	事	正木創一(08~11)
幹	事	関根大助(08~11)
幹	事	井上善史(08~11)
幹	事	登ヶ谷祐人(08~11)
幹	事	金子浩二(08~11)
幹	事	内田 修(08~11)
幹	事	成田哲浩(09~12)
幹	事	八木美由紀(09~12)
幹	事	川合貴子(09~12)
幹	事	井上明子(09~12)
幹	事	徳田瑞希(09~12)
幹	事	斎藤真規(10~13)
幹	事	長岡福也(10~13)
幹	事	上西智史(10~13)
幹	事	筒井靖子(10~13)
幹	事	杉山祥啓(10~13)
幹	事	渡辺梓(10~13)
幹	事	大津留真紀(10~13)
幹	事	大友仁美(10~13)
幹	事	佐野京子(12·13)
幹	事	鈴木亜希子(12·13)
幹	事	園部真子(12·13)
幹	事	長谷川郁子(11~14)

校友会だより

總
會

平成二十二年八月二十一日（十六時三十分）からみしまプラザホテルにて総会が開催された。

江本博勝副会長の司会で山田浩子副会長の開会が伝えられ進行され、相田信次会長挨拶、佐藤三武朗国際関係学部長の来賓挨拶の後、議長団・書記が選出された。議長には早川清文幹事、副議長には久保田博明常任理事、書記には中山優貴幹事が選出され、次の議事が審議された。

平成二十一年度事業報告
平成二十一年度決算報告
監査報告

平成二十一年度事業報告（案）
平成二十一年度予算（案）
平成二十一年度新幹事選出
国際関係学部校友会中・長期事業計画（案）
国際関係学部への補助等に関する件



国際関係学部校友会

- 一 國際關係學部校友會會則改正
に関する件
 - 一 國際關係學部校友會會長賞給
付規程改正に関する件
 - 一 校友會獎學金について
 - 一 各科活動報告
 - 一 その他

①国際関係学部創立五十周年記念基金 ②三島学園開設七十五周年記念基金 ③日本大学創立百五十周年記念基金の三項については繰越金の十五%を、④準会員に対する校友会奨学基金として繰越金の二十五%を積み立ての基本金額としたい旨の提案説明がされた。奥田吉郎顧問から各周年事業の目標額の設定をしたらどうかとの意見が出され次年度総会までに報告したい。

国際関係学部への補助等に関する件については柴田正顧問から従来は学部・校友会が別に渡していたが、大学側より卒業記念品の一本化について要望があり検討内容の説明がなされた結果、校友会及び学部連名で記念品を渡すことで承認された。

国際関係学部校友会会則改正の関する件については田中由雄幹事長から

続いて平成二十二年度事業計画（案）及び平成二十二年度予算（案）について審議され、承認された。二案について案の削除となつた。

平成二十二年度新幹事とし国際関係学部六名、食物栄養学科十二名を事務局推薦したい旨の提案があり承認された。

国際関係学部校友会中・長期事業計画（案）については柴田正顧問から今後予想される記念事業計画基金として次年度繰越金から積み立てを実施したい。

会則第十条第一項及び第十二条第六項の追加について提案説明がなされ承認された。

国際関係学部校友会会长賞給付規程に関する件については田中由雄幹事長から給付名称並びに給付額の変更について提案説明がなされ承認された。校友会奨学金については相田信次会長から平成二十二年度奨学生第二種二十二名が決定した旨の報告がなされた。各科活動報告については、浅田義志子桜栄会会长から総会報告がなされた。その他としては田中由雄幹事長から国際校友会公式WEBサイトが平成二十二年一月開設された旨の報告がなされた。

桜
栄
会

三武郎先生の開会挨拶で、懇親会に移りました。



桜栄会



国際関係学部同窓会

日本大学国際関係学部校友会会則

第1章 総 則

(名 称)

第1条 本会は日本大学国際関係学部校友会と称する。

(事務局)

第2条 本会は事務局を静岡県三島市文教町2丁目31番145号に置く。

第2章 目的及び事業

(目 的)

第3条 本会は会員相互の親睦と融和をはかり母校の発展に寄与すると共に母校建学の理念を社会に拡充することを目的とする。

(事 業)

第4条 本会は前条目的達成のために次の事業を行う。

- 1 会報発行・会員名簿の作成
- 2 会員相互の親睦と融和をはかるための諸事業
- 3 母校の発展興隆に関する諸事業への協力参加
- 4 その他目的達成のために必要な諸事業

第3章 会 員

(会員構成)

第5条 本会は日本大学三島予科・三島教養部・文理学部三島・短期大学部三島・国際関係学部・大学院国際関係研究科の出身者および在籍した者による正会員と幹事会において本会に關係が深く功勞があると認められた特別会員・名誉会員並びに準会員である国際関係学部(大学院含む)・短期大学部三島の在学生。但し議決権は有しない準会員により構成する。

(会 費)

第6条 会員は規程の定めるところにより、会費を納入しなければならない。

- 2 会費及び徵収方法は別に定める。
- 3 特別会員・名誉会員は会費を徵収しないものとする。

第4章 役 員

(役員構成)

第7条 本会に次の役員を置く。

- 会 長 1名
副 会 長 若干名
幹 事 長 1名
常 任 幹 事 若干名
幹 事 若干名
会 計 監 査 2名

(顧問・参与)

第8条 本会は顧問・参与を置くことができる。

- 2 顧問・参与は幹事会の議を経て会長が委嘱する。

(役員の選出)

第9条 会長は会長・副会長会議で推薦され、総会にて承認を得るものとする。

- 2 副会長は国際関係学部校友会を構成する各同窓会会长或は在学した者の代表者とし会長が推薦し、常任幹事会に報告するものとする。
- 3 幹事長は常任幹事から会長が推薦し、常任幹事会に報告するものとする。
- 4 常任幹事から庶務担当・会計担当を幹事長が指名し、会長・副会長会議に報告するものとする。

(任 期)

第10条 各役員の任期は3年とし、再任は妨げない。ただし満80歳をもって定年とする。なお、期間は当該年度内とする。

- 2 欠員が生じたときは、必要に応じて補選し、その任期は前任者の残存期間とする。
- 3 任期満了した場合においても、後任者が就任するまでの間その職務を行う。

(役員の職務)

第11条 会長は本会を代表し会務を総括する。

- 2 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代行する。
- 3 幹事長は事務を統括し、本会運営に必要な一切の事務事項を遂行する。
- 4 常任幹事は幹事の互選により選出し、常任幹事会を構成、本会業務の遂行にあたる。
- 5 幹事は幹事会を構成し、本会運営の諸事項の議決にあたる。
- 6 顧問・参与は本会の重要事項につき、会長の諮問に応ずるものとする。
なお、顧問・参与には役員に関する規定を準用する。

第5章 会 議

(会議及び議決方法)

第12条 本会の会議は、総会・会長、副会長会議・常任幹事会・幹事会の4種とする。

2 会議は会長が招集し、議長団はその都度選出する。

3 やむを得ない場合は、常任幹事会及び幹事会をもって総会に代ることができる。

(会議の構成及び開催)

第13条 本会は目的達成のため下記の機関を置く。

2 総会は本会運営上の諸事項についての報告を受けこれを承認する。

総会は年1回開催するものとし会長がこれを招集する。

3 常任幹事会は常任幹事以上の役員を以て構成し本会の執行機関として本会の実質的運営にあたる。常任幹事会は必要に応じて隨時会長がこれを招集する。常任幹事3分の1以上の要求があった場合はこれを招集しなければならない。

4 幹事会は総会の代行機関として第14条の事項を付議し、これを議決する。

幹事会は年1回以上開催するものとし会長がこれを招集する。幹事3分の1以上の要求があった場合は臨時に招集しなければならない。

5 事務局は幹事長指示のもと会員相互の連絡及び各会議の議事の収録並びに運営に必要な一切の事務を行う。

(総会の審議)

第14条 総会は次の事項を審議し議決する。

1 会則及び重要規定の制定、改廃に関する事項。

2 事業計画に関する事項。

3 予算・決算に関する事項。

4 会長の選任に関する事項。

5 その他第4条に基づいて必要と認められた事項。

第6章 支 部

(支部の設置)

第15条 本会は円滑な発展と交流の促進のために支部を設けることができる。

2 支部の設置条件及び方法は別に定める。

第7章 会 計

(会計年度)

第16条 本会の会計年度は4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(経費)

第17条 本会の経費は、会費並びに寄付金その他の収入を以てこれを充てる。

(会計監査)

第18条 会計監査は本会会計及び財務について監査し、その結果を総会にて報告する。

第8章 会 則

(会則変更)

第19条 本会の会則の変更は総会の議を経てこれを決する。

(会則の遵守)

第20条 国際関係学部校友会は日本大学校友会会則及び支部規程を遵守しなければならない。

(施行細則)

第21条 この会則に必要な細則は会長・副会長会議及び常任幹事会の議決を経て会長がこれを施行する。

第9条 表 彰

(表彰)

第22条 本会の目的及び事業に貢献した者は幹事会の議を経て、これを賞することができる。

第10章 除 名

(会員除名)

第23条 会員が次の事項に該当した行為があったときは幹事会の議を経て除名することができる。

1 国際関係学部の名誉を傷つけ、また校友としての品位を害する言動があったとき。

2 校友会の秩序を乱したとき。

3 故意または重大な過失により校友会に損害を与えたとき。

付 則 本会則は平成22年10月1日より施行する。

日本大学校友会組織図

日本大学校友会(校友会本部事務局)

都道府県支部(65 支部)

北海道ブロック(札幌・旭川・稚内・小樽・帯広・留萌・苫小牧・網走・釧路)
東北ブロック(青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島)
関東ブロック(茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・神奈川・川崎・山梨)
東京ブロック(東京都第一・東京都第二・東京都第三・東京都第四・東京都第五・
東京都第六・東京都第七)
東海ブロック(岐阜・静岡・愛知・三重)
北信越ブロック(新潟・富山・石川・福井・長野・長野北信)
近畿ブロック(滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山)
中国ブロック(鳥取・島根・岡山・広島・山口)
四国ブロック(徳島・香川・愛媛・高知)
九州ブロック(福岡・北九州・佐賀・長崎・佐世保・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄)

学部別部会(16 部会)

本部大学院・法・文理・経済・商・芸術・国際・理工・生産工・工・医・歯・松戸歯・生物資源科・薬・通信

職域別部会(4 部会)

全国桜師会・桜門会計人会・日本大学法曹会・全国桜門スポーツ部会

桜門会

海外特別支部(8 支部)

韓国・ブラジル・ロサンゼルス・台湾・サンフランシスコ・スペイン・インドネシア

日本大学国際関係学部校友会組織図

三島豫科
三島教養部
文理学部(三島)

短期大学部
桜文会(国文・英文)
商経科同窓会(1・2部)
桜栄会(家政・食栄・生活)
工科同窓会(建築・機械)

国際関係学部同窓会

国際関係学部校友会
(旧三島同窓会)